

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	感染・炎症が加速する発がんスパイラルとその遮断に向けた制がんベクトル変換
領域代表者	畠山 昌則（東京大学・大学院医学系研究科・教授）
研究期間	平成 22 年度～平成 26 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>発がんとは炎症に関する研究は昨今国際的に見ても非常に重要度を増している研究領域である。その中で、本研究領域は発がん微生物の感染およびそれに伴う免疫・炎症反応が感染局所に築き上げる発がん促進の場としての「がん微小環境」ならびに「発がんスパイラル」の本態を分子レベルで解明するとともに、免疫の人為的制御による発がんスパイラルの遮断をがんの革新的予防・治療法に結び付けることを目指している。これまでがん特定領域研究のメンバーらが個々に進めてきた高いレベルの研究を基に、研究計画は発がんを微生物学、免疫学を軸に、がんタンパク、がん微小環境、ゲノム解析などを統合的に捉えて研究を進めるのみならず、免疫制御を標的とした治療も視野に入れた非常に意欲的な提案となっている。優れたリーダーシップを有する領域代表者の下で、個々の研究が進展しそれらを統合的に高めていくことで、既存の枠を超えてがんとは炎症をむすぶ新たな学術領域の形成が期待できる。</p>